



佐世保市立黒髪小学校

所在地 佐世保市黒髪町52-1
 校長 吉田 春樹
 児童数 498名
 学級数 20学級



【教育目標】

将来かなえたい夢や希望を語り、その実現のために意欲的に学んだり、努力したり
 (大志) (自己実現)
 できる、優しさとたくましさを備えた黒髪っ子の育成をめざす。
 (自立・自律) (教育)

ひと

ふるさと

社会

体験活動により、人とつながり、触れ合う。	地域の自然や施設、歴史や文化などについて感心を持つ。	福祉・平和など、社会事象について体験的に学ぶ。
<ul style="list-style-type: none"> ・栽培活動 ・体験活動 ・家族や地域とのつながり ・人への関心 ・相手の思いや願い ・コミュニケーション能力 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然 ・地域の施設 ・地域の歴史、文化 ・ふるさとへの愛着 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者との交流 ・障がいの擬似体験 ・自分にできる社会貢献 ・戦争の悲惨さ ・平和の大切さ

(1) 各学年の具体的な取組内容

【第1・2学年】「野菜を育てよう」

【ねらい】

- ・野菜を育てることで、命を大切にする心を育てる。

【活動の概要】

じゃがいも等の野菜を畑に植え、当番で水やりなどをしながら大切に育ててきた。育ったじゃがいもは、自分たちで収穫し家庭に持ち帰って食べることができた。

【成果と課題】

- ・自分たちで世話をした作物を食べることで収穫の喜びを感じ、食べ物への感謝の気持ちをもつことができた。畑の整備や芋の調理など、多くの人々に支えられていることに気づくことができた。



【第3学年】「地域を知ろう～黒髪のじまん～」 「環境について考えよう」

【ねらい】

- ・黒髪町付近の地域のじまんや九十九島の自然や生き物について調べる。
- ・工作やゲームを通して、環境について知り地球にやさしい取り組みを実践していこうとする。

【活動の概要】

- ・黒髪地区には、どんなじまんがあるのか、実際に黒髪町を歩いたり調べたりして、地域のじまんとまとめる。
- ・市役所環境課の支援を得て環境教室を実施した。トイレットペーパーの芯を活用したペン立てづくりや環境すごろくを行った。

【成果と課題】

- ・自分たちが住んでいる黒髪町には他の町にはない、素晴らしい産業や施設・伝統文化があることに気づき、地域を愛する気持ちが芽生えた。
- ・工作やすごろく遊びを通して、地球環境を守っていくことの大切さを学ぶことができた。



【第4学年】「平和について考えよう」

「10才の私を見つめよう」

【ねらい】

- ・原爆について知り、戦争の悲惨さから長崎・佐世保の平和について考える。
- ・10才の自分を見つめなおし、将来の夢に向かって努力する態度を育てる。

【活動の概要】

- ・事前に資料やインターネットを使つての調べ学習を行った。その後平和公園・爆心地公園・原爆資料館の見学を行い、プレゼンテーションソフトを使ってまとめることができた。

【成果と課題】



- ・「人権・平和」について学んだりする活動を通して、「しあわせ、自由・平等、権利」について学びを深めることができた。
- ・将来の夢について考え、資料を使って調べることで将来の夢に向かって努力する態度を高められた。

【第5学年】「食について考えよう」

【ねらい】

- ・旬の野菜について知り、土づくりや畝立て、ポットへの種まきや苗作りなど体験活動を行い、収穫した野菜を家庭科での味噌汁作りに使ったり、プレゼンテーションソフトを活用して発表会を行ったりして活動の達成感を味わわせ、食を愛する心情を育てる。



【活動の概要】

- ・畑に肥料を混ぜて耕し、畝を立てた。ポットに種を蒔いて苗を作り、畑に植えかえた。当番制で水やりや雑草取りをして観察させながら育てた。また、できた野菜を収穫し、自宅へ持ち帰って食べることができた。

【成果と課題】

- ・実際に種から野菜を育てるという体験活動を行ったことで、食べ物を育てる大変さを実感させることができた。また、食べ物を大切に食べようという意識や地産地消への関心も高まった。

【第6学年】「お年寄りが生き生きと暮らせる社会に」

【ねらい】

- ・お年寄りとのコミュニケーション力を身につけるとともに、相手に思いやりをもって行動する態度を養う。

【活動の概要】

- ・毎年、校区内にある特別養護老人ホーム「チューリップ」で働く人の思い、お年寄りの生活の様子や接し方、認知症に対する知識についてお話いただいたりする活動を行っていたが、今年度は、感染症拡大防止のために実施を中止し、「福祉」について資料やインターネットを活用して調べた。また、お年寄り体験のキッドを借りて、実際に体感することで、怖さや辛さを実感としてとらえることができた。



【成果と課題】

- ・今年度は、中心となる活動そのものが実施できなくなり、計画を大きく変更しなくてはならなかった。次年度もこのような状態が継続する可能性もあるので、年度当初から大きく計画を見直す必要があるという課題が残った。

(2) 学力向上の取組

本年度は「すすんで学び、いきいきと表現する黒髪っ子の育成をめざして」を主題に掲げ、算数科に教科を絞って取り組んだ。副主題を「わかる喜び、できる楽しさを体験できる算数科の授業づくりを通して」として、意欲向上に向けた授業づくりに取り組んできた。

また、本校児童の実態を把握し、本研究の取り組みを検証する資料とするために全校児童への実態アンケートを実施した。

【成果と課題】

前年に続いて、ほとんどの学年において算数の学習に対する意欲や興味、関心の向上が見られた。各学級の担任および少人数指員からも、学習課題への取り組みや発表などの様子から積極性や主体性がより多く見られるようになったという報告がなされている。本研究で目指す児童像「自律的に行動したり、学んだりできる」児童の具現化に近づきつつあると考えられる。

全学年において児童の算数の学習に対する考え方にプラスの変化が見られる。中でも特に学習内容の定着および学習態度や意欲、関心に課題が見られる児童において、よい方向への変化が顕著に見られたという報告が多くの学年からあがっている。

その理由として、習熟度別の少人数指導やチームティーチング（TT）による授業の成果が挙げられている。「個に応じた指導」および「個別最適な学び」が授業の中で確実に行われ、成果に繋がったものと考えられる。また、それぞれの学年において学習活動への参加に特別な配慮を要する児童も少なくない。今後一層、児童一人一人に「個別最適な学び」の場を保証していく必要がある。